朝ドラ「らんまん」からの出会い

二〇二三年四月三日から九月二十九日にかけて、ＮＨＫ連続テレビ小説「らんまん」が放送されました。このドラマは、日本の植物学者牧野富太郎をモデルとして、その生涯を描いた作品です。

これまで、身近な植物にはほとんど興味をもつことのなかった私ですが、このドラマをきっかけに、生活の中で目にした草花をカメラに収めるようになりました。

撮影した植物は、検索アプリを利用して名前を調べ、登録するようにしました。結果、一年間で、二百二十種類もの植物と出会うことになりました。

そんな活動を始めた四月の終わりごろでした。いつものように、朝のウォーキングをしていると、かわいいシンビジウムのような黄色い花に出会いました。調べてみると、それは「キエビネ」でした。

何と、それは牧野富太郎が師と仰ぐドイツの学者シーボルトが観察研究をした植物であることを知り、驚くとともに、植物との出会いの楽しさを味わうことができました。

そんな折、キエビネの近くをふと見ると、二枚の葉を広げた植物がありました。花は散っていて、よくわからなかったので、写真を撮って検索したり人に尋ねたりしました。その結果、それは、「クマガイソウ」であることがわかりました。

そこで、次の春まで待って、花の写真を撮ることができました。

クマガイソウとよく似た花に、「アツモリソウ」があります。両者の和名の由来は、膨らんだ形の唇弁を、昔の武士が流れ矢を防ぐために背中に背負った母衣に見立てて、源平合戦の源氏方熊谷直実と、平氏方で一ノ谷の戦いで彼に討たれた平敦盛にあてたものである、と言われています。

熊谷直実は、平安時代末期から鎌倉時代初期の武将です。最初平家に仕えていましたが、石橋山の戦いを契機として、源頼朝に臣従して御家人となりました。しかし、意に反して息子ほど年齢差のある若き武将敦盛の命を奪ったことをきっかけにして、後の出家につながっていきました。こうしたことは、「平家物語」の中に描かれ、能や歌舞伎でも直実の無常観として今でも上演されています。

奥三河郷土館には、直実（左）と敦盛（右）の土雛があります。歌舞伎の一場面を再現した、動きのある作品です。郷土館にお立ち寄りの際には、ぜひ探してみて下さい。

私が見つけたクマガイソウは、散歩コースの道路際のほかに、道路から少し杉林に入った、あまり直射日光が入らない場所にもありました。不思議なことに、そこでもエビネやキエビネが一緒に花を咲かせています。自分なりに、これらの関係を調べましたが、共生するという事実は見つかりませんでした。

先日、「宝泉寮」を訪問した際に、改装された部屋を見させてもらいました。部屋にはそれぞれ花の名前がついていて、その中に「クマガイソウ」という部屋を見つけました。これを見て、昔は、山にたくさん咲いている花だったのだろうと思いました。

今では、クマガイソウは、環境省の絶滅危惧種、エビネは準絶滅危惧種に指定されています。守っていきたいものです。

（設楽町文化財保護審議会委員　氏原　周次）